

人権啓発センター だより

平成27年11月

No.23



「世界人権宣言」

1948年12月10日、フランス・パリで開かれた第3回国際連合総会で、あらゆる人と国が達成しなければならない共通の基準として「世界人権宣言」が採択されました。今も世界中の人々の生活に大きな影響を及ぼしています。国連人権委員会の委員長を務めたエレン・ア氏は、「普遍的な人権とは、身近な場所から始まるのです。しかしこの小さな場所こそ、一人ひとりの人間にとっての世界なのです。自分が暮らす地域、通う学校、働く工場や農場。そこで人権が意味を持たなければ、他の場所でもほとんど意味を持ちません。身近なところで人権を擁護する市民活動がなければ、より広い世界での進歩など期待できないのです」と言っています。人権とは、一部の人の問題でも難しい問題でもありません。私たちが毎日生活しているその場面が人権と関わっているのです。現在、世界人権宣言は360以上の言語で翻訳されており、世界で最も重要な文書のひとつと考えられます。皆さんもぜひ世界人権宣言を読んでみてください。

(事務局長 福田)



人権あれこれ



～セクシャル・ハラスメント～

4月の新しい年度になってからというもの、セクハラ・パワハラの研修依頼が、次から次に舞い込んでくるようになった。このことは、この1、2年の間に、高知県の警察官・公務員・教員のセクハラ問題が何度も高知新聞に取り上げられたことが一つの大きな要因であるとみる。

セクハラ＝セクシャル・ハラスメントとは、「性的嫌がらせ・いじめ」のこと。1989年の流行語大賞受賞から日本人に広く認識されるようになった。

しかるに、実際的には今日、高知県民のセクハラへの人権意識は低く、公的な職場であっても、しっかりした対策ができていないことが露呈されることとなった。このたびは足下に火がついての急ぎの研修である。

私たち高知県人権啓発センターは、県民に人権啓発を行うことが職務である。一緒に考え、取り組んでいかねばと考えている。

セクシャル・ハラスメントと酒席は密接にかかわっている場合が多い。とかく一昔前までの土佐人は酒の上の失敗にはきわめて寛容であった。

「酒の上の事よ」「酒を飲んじょったらしかたがない」おおらかという見方の陰で、人権が尊重されず、傷ついてきた女性も多かったはずだ。人権に対して、まだまだ社会の未熟さを感じる。時代の進展とともに人権の確立をいっそう強固にしていかなければならない。

(研修講師 山下)

じんけんライブラリー

一押し本

『パワハラ防止のためのアンガーマネジメント入門』

～怒り、イライラのコントロールで、職場は変わる！成果が上がる！～

小林浩志／著 東洋経済新潮社（1,500円＋税）

「アンガーマネジメント」は、1970年代にアメリカで始まった、怒りの感情をマネジメントするための心理トレーニング法のこと。「怒らなくなる」ことではなく、怒りの感情と「上手く付き合う」ことを意味しています。＜怒りの発生パターンを知ろう＞ ＜解決志向で、しつこい「思い出し」怒りを解消しよう＞ ＜イライラを「書いて」「見える化」し、怒りの「クセ」を知ろう＞など、目次を読むだけでも上手く向き合えそうな気持ちになります。パワハラ防止に力点を置いて書かれていますが、職場以外の人間関係や、自分の感情をコントロールできないと感じている人にとってもおすすめです。

（企画啓発課 宮田）

人権啓発映画のテレビ放映のご案内

映 画 「秋桜—コスモス—の咲く日」（34分）

（企画／北九州市・北九州市教育委員会・北九州市人権問題啓発推進協議会）

「平成26年度人権啓発資料法務大臣表彰映像作品部門 優秀賞」（法務省主催）

「平成26年度優秀映像教材選奨 社会教育部門優秀作品賞」（一般財団法人日本視聴覚教育協会主催）

「映文連アワード2014 文部科学大臣賞」（公益財団法人映像文化製作者連盟主催）

放映時間 平成27年11月22日（日）16:15～16:55

放映局 テレビ高知

あらすじ

介護施設に就職した発達障害の青年との出会いを通して、他の職員や利用者たちが障害への理解を深めていく物語。青年は対人関係をうまく築くことができず、周囲の人たちとトラブルを起こすが、素直さやまじめな姿勢が次第に受け入れられていく…。

「目に見えにくい違い」の一つである発達障害のある人の生きづらさや痛みを伝えるとともに、「ともに生きることの喜び」を伝えるための教材として制作されています。





事業報告

アイゴッソ高知と連携・協力した冠協賛試合を開催しました

いじめ等の身近な人権課題について、県民の皆さまに関心を持ち、理解と認識を深めていただくため、10月4日（日）アイゴッソ高知と連携・協力して冠協賛試合を開催しました。

「子どもの人権サポーターゲーム」として、人KENまもる君と人KENあゆみちゃんと一緒に、グラウンド内で横断幕を掲げて人権啓発アナウンスを行いました。また、来場者には、人権啓発クリアホルダーやタオルマフラーなどを配布しました。

当日は、最終公式戦ということもあり、430 人の方が来場され大人から子どもまでたくさんの方に啓発でき、とても意義のある催しになりました。



＜試合後のアンケートより＞

- ◎スポーツも人権も「ルール」と「平等」に守られている。特にサッカーは相手をリスペクトする精神を重んじているため、試合会場で人権啓発活動は良いと思う。
- ◎子どもが多く来ているので、スポーツを通して小さい頃から「人権」に関心ができれば良いのではないのでしょうか。
- ◎スポーツを通じて「人権」を学べる事はいいいことだと思います。
- ◎人が集まる場所での啓発活動はいいと思う。
- ◎積極的に取り組んでいる様子がみえました。

など、「スポーツを通して人権について考える」という形は多くの県民の方に好感をもっていたきました。





Information お知らせ

イベント紹介

「第19回じんけんふれあいフェスタ」を開催します

今年も高知市中央公園でじんけんふれあいフェスタを開催します。

子どもから高齢者までが楽しめる催しが盛りだくさんです。ぜひ、会場へお越しください。

※詳しい内容は、当センターのホームページに掲載しています。

●日 時：平成27年12月6日（日）9：30～15：30

※雨天決行

●場 所：高知市中央公園（高知市常屋町1-11）

●ステージプログラム ※手話通訳あり

9:30～9:40 オープニングセレモニー

潮幼稚園園児のマーチング演奏

9:40～10:00 人権作文表彰式

10:10～10:30 幼稚園児と人権キャラクターによる歌と合奏

10:40～11:20 ツーライスお笑いライブ

11:30～12:00 それいけ！アンパンマン ショー1回目

12:15～12:45 松村凜太郎（県内の小学5年生）のソロピアノステージ

13:10～13:40 堀内佳ライブ&トーク

14:00～14:30 それいけ！アンパンマン ショー2回目

14:45～15:30 盲目のヴァイオリニスト「増田太郎」トーク&ライブ



その他、人権啓発コーナー、子ども広場（カラフルボトルオブジェづくりなど）、ジャグリングショー、バレーングリーンティング、土佐の食1グランプリ参加店の出店、アンパンマンとの撮影・握手会、色弱体験コーナーほか、花の苗プレゼントなどの来場者プレゼントもあります。

（企画啓発課 佐伯）



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

■ 図書

1人5冊以内で、期間は2週間以内です。

■ ビデオ・DVD

1人2巻以内で、期間は2週間以内です。

■ パネル

1人3セット以内で、期間は1カ月以内です。

※ 直接来所できない場合は送付もいたします。

（送料は利用者のご負担となります）



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

■ 収容人員

270名（机を使用する場合は180名）

■ 設備

放送設備、スクリーン、冷暖房

■ その他

使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : http://www.kochi-jinken.or.jp